



2024/10

第151号

JA徳島厚生連だより

# お元気ですか！

- ダニ媒介感染症
- 日本での小児に対する予防接種の変遷
- ツバサプロジェクトに参加しました！
- 吉野川医療センター 最新のMRI装置を導入
- 高校生ふれあい看護体験
- 正しい姿勢で食べよう
- 趣味
- にこにこ保育園通信

# ダニ媒介感染症

阿南医療センター 内科医長 むらい じゅんぺい 村井 純平

## <主なダニ媒介感染症>

皆様は山でダニに刺されたことはありますか。山から下りて、気付いたら噛まれていた経験がある方もいるかもしれません。この際、特定の病原体に感染している個体に刺され発症するものがダニ媒介感染症です。

本邦、特に徳島県におけるダニ媒介感染症で知っておくべき3つを紹介します。リケッチア感染症である日本紅斑熱とツツガムシ病、ウイルス感染による重症熱性血小板減少症(SFTS)です。3者は3徴である「発熱」「発疹」「刺し口」を認め、臨床像もかなり似通っています。鑑別点として皮膚所見が重要です。発疹に関して、リケッチア感染症のうち日本紅斑熱が手足優位を認めるのに対し、ツツガムシ病は体幹部を優位とします。日本紅斑熱に認める手掌の発疹がツツガムシ病には認められないことが重要です。SFTSは血小板減少が強いことが多く、下肢優位の紫斑を伴うことがあります。刺し口は、日本紅斑熱で3～8mmが多い一方、ツツガムシ病は8～12mmとされます。病歴について、日本紅斑熱の潜伏期間が2～8日で発熱とほぼ同時に発疹が出現するのに対し、ツツガムシ病は5～14日で発熱し、3～4日後に発疹が出現します。SFTSは日本紅斑熱と似た経過を辿ることが多いですが、白血球や血小板など血球減少がより強く出ます。



マダニ 国立感染症研究所ホームページから引用。



日本紅斑熱 広島県ホームページから引用。

## <治療と最新情報>

リケッチア感染症の治療には抗菌薬が用いられます。重症度に応じ、2剤併用で治療することもあります。早期介入が状態改善の肝となります。

最近のトピックスとして、リケッチア感染症と違い、これまで対症療法しかなかった SFTS に新たな

展望が生まれています。コロナ禍で有名になったファビピラビル(薬品名:アビガン)が、今年8月から追加承認されています。時に集中治療室での治療を余儀なくされることもあった SFTS に対する初の治療薬として、地域医療従事者から大いに期待を集めています。

時に命に関わることもあるダニ媒介感染症です。山間部での作業時は長袖・長靴での予防を行って下さい。山に入って数日後から発熱、倦怠感、食思不振を認めた場合は、必ず診察時にそのことを伝えることを忘れないで下さい。

山や草むらでの野外活動のときは、**肌の露出を少なくしましょう**

- 帽子の着用
- 長袖・長ズボン 登山用スパッツ等の着用
- 足を完全に覆う靴を履く
- 手袋の着用
- 首にタオル等を巻く

水戸市ホームページから引用。

## 日本での小児に対する予防接種の変遷

吉野川医療センター 小児科部長  
木下 ゆき子

日本はかつて予防接種後進国と言われており、私が医師になった2001年に小児に対して公費負担の予防接種は破傷風、百日咳、ジフテリア、ポリオ、BCG、麻疹、風疹、日本脳炎、母子感染予防としてのB型肝炎ワクチンのみでした。その後、2013年にヒトパピローマウイルスワクチン、細菌性髄膜炎の2大起炎菌であるインフルエンザ菌b型と肺炎球菌ワクチンが定期接種となり、髄膜炎によって後遺症を残す子供たちが減ったことはワクチンの大きな恩恵と言えます。現在はさらに水痘、全出生児に対するB型肝炎ワクチン、ロタウイルスワクチンも定期化されるとともに、肺炎球菌ワクチンは血清型が7価から15価に増加し、より広い範囲の血清型をカバーできるようになりました。また本年10月には20価の血清型含有肺炎球菌ワクチンも定期接種化される予定です。ワクチン数が増え、注射回数が多くなることで児や保護者の負担になっていましたが、同時接種が可能となり、複数のワクチンを一つに製剤化する試みも進んでいます。本年4月には4種混合（破傷風、百日咳、ジフテリア、ポリオ）とインフルエンザ菌b型が一つになった5種混合ワクチンが定期接種化されました。ワクチンではありませんが、1歳未満や基礎疾患のある小児が感染すると重症化のリスクが高いRSウイルスに対する抗体であるパリビズマブの適応が拡大し、これまでは早産、気管支肺異形成症、先天性心疾患、免疫不全、ダウン症の児のみでしたが、先天代謝異常症や神経筋疾患等の児にも適応となりました。また5月に長期間作用型RSウイルス抗体であるニルセビマブが発売され、月1回の接種から1シーズンに1回の接種となり、受診負担が大きく軽減されました。

先進国の多くで定期接種となっているにも関わらず日本ではまだ任意接種のワクチンであるムンプスワクチンの定期接種化など、まだまだ課題はありますが、ワクチンで予防できる感染症が増えたことで、私が医師になった頃に比べ感染症による小児科入院は減少しており、ワクチンによる寄与が大きいと考えられます。



## 『ツバサプロジェクトに参加しました!』

阿南医療センター 看護師長 船田 美紀

令和6年8月3日(土)4日(日)の2日間にわたってアミコ東館内で『ツバサプロジェクト』が開催されました。ツバサプロジェクトとは、SDGsをテーマに掲げた子供の職業体験ブースや景品がもらえるスタンプラリー、アミコ東館内をまわるクイズラリー、また魅力あふれる物販や飲食のマルシェコーナー、占い、リラクゼーションコーナーなど趣向を凝らしたイベントで、今年で3回目の開催でした。そのイベントに医師・看護師・薬剤師と、阿南医療センターからメンバーを揃え、昨年に引き続き参加させていただきました。今年は【ミニキッズニア】で、「医師の診察体験」・「赤ちゃんのお世話体験」・「くすりの調合体験」の3ブースと「医師・看護師なりきり白衣試着体験」を実施しました。昨年は呼び込みをしながら74名の方が参加してくださったとのことで、今年は開始早々から呼び込みに力を入れようと考えていましたが…。開始とともに大行列となり、対応に追われ大奮闘。息つく間もなく時間が過ぎていきました。

医師の診察体験ブースでは、聴診器を使ってご家族の心音聴取をする真剣で頼もしい表情が見えました。赤ちゃんのお世話体験ブースでは、我が子が産まれた時のことを懐かしむ親御さんの姿と、赤ちゃん人形を抱く子供さんのはにかんだ笑顔がとても微笑ましかったです。くすりの調合体験ブースでは、お菓子を薬に見立てて分包する体験を行いました。これが今回、大好評。常に行列で担当薬剤師からはありがたい悲鳴が漏れていました。白衣試着体験も大変な人気で、小さいお医者さん・看護師さんの記念撮影では「かわいい〜!」の声が漏れっぱなしでした。

2日間での参加者は延べ506名。楽しみながら医療に関してのお仕事体験をしていただくことで、将来就く仕事に医師・看護師・薬剤師の名前があがると嬉しいなーと思いながら参加した2日間でした。貴重な体験をさせていただいたことに感謝いたします。



## 吉野川医療センター 最新のMRI装置を導入

吉野川医療センター 放射線科  
磁気共鳴専門技術者 高橋 康宏  
たかはし やすひろ

当センターでは、今年4月にフィリップス社製の最新MRI装置「Ingenia Elition 3.0T」を導入いたしました。今回は、この装置の特徴をご紹介します。

まず、大きな特徴の一つに、人工知能（AI）を活用した技術があります。この技術により、検査時間を延長することなく、高精度な画像の撮影が可能になりました。また従来の装置では、撮影中に患者さんが動くことで画質に大きな影響を受けていましたが、最新の動き補正技術により、動きに強い画像が撮影できるようになっています。特にMRI検査は、検査時間が長く、痛みを伴う患者さんが無意識に動いてしまうことが多くありましたが、これらの技術によって、患者さんへの負担が軽減されました。さらに、従来の装置では難しかった広範囲の撮影や、呼吸が不安定な患者さんの撮影も安定して行えるようになりました。これにより、診断の精度が向上し、患者さんに対する治療の選択肢が広がることが期待されます。

加えて、この装置は従来の装置と比べ、検査をより快適に行えるように設計されています。検査時に患者さんが入るトンネルは、従来の装置より広く、明るく設計されており、閉所感や不安感を和らげる工夫がされています。さらに、MRI装置特有の騒音も極力抑えられており、撮影している我々には撮影中の音漏れもほとんど感じられなくなりました。これにより、閉所恐怖症の患者さんやお子さん、高齢者の方々も安心して検査を受けていただけたと考えています。

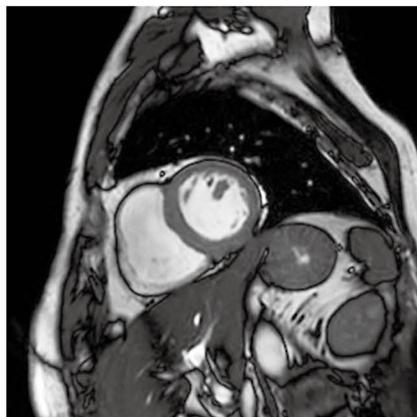
これらの最新技術の導入により、今年7月のMRI検査数は過去最高を更新し、昨年度の同月比で1.26倍に達しました。特に、外来患者さんや入院患者さん、そして救急対応を含めた緊急検査数は1.39倍に増加しており、効率的で迅速な対応が行えていると感じています。

今後も、技術の向上と患者さんの快適性を追求し、皆様に信頼される医療サービスの提供に努めてまいります。どうぞご期待ください。

フィリップス社製MRI装置



心臓機能検査



腰椎検査



より高画質の撮影が可能となりました。また、動きのある部位の画質も向上しています。



## 「高校生ふれあい看護体験」

阿波病院 看護部 教育委員長 きとう なおこ 佐藤 直子

7月25日、阿波病院内で高校生ふれあい看護体験を実施しました。徳島市内の高校から2名の参加がありました。オリエンテーションの中で、徳島県厚生連本部の三木参与から「魅力ある看護への道」と題し、看護の魅力について話があった後、病院見学をし、血圧測定やベッドメイキング、車椅子移乗、個人防護具の着脱体験などを行いました。

参加者からは、「楽しかった」「看護体験をして看護師になりたいという思いが強くなった」「体験内容が豊富で、よかった」等の感想をもらい、良い経験となり、看護職により興味をもっていただけたと思います。



# 正しい姿勢で食べよう

阿南医療センター 栄養管理科

食事の時だけとは限りませんが、正しい姿勢で食卓につくと食事がいっそうおいしく感じられます。

## ◎食べる時の姿勢

食事をする時は、食卓に向かってまっすぐに座るようにしましょう。

そして、背中をまっすぐにのびします。背中が曲がっていると、胃、腸、肝臓、心臓を圧迫してしまい、食べ物をうまく消化・吸収することができなくなってしまいます。

せなか まる  
背中を丸くして  
た  
食べちゃだめ



ただ しせい  
正しい姿勢を  
み  
見てみよう



## ☆一度自分の姿勢を確かめてみよう☆

●まえかがみで食べる



●ひじをついて食べる



●いすにもたれて食べる



●いすにもたれてかかって食べる



## 趣味



吉野川医療センター 臨床検査技師 田中 孝

私の趣味はバドミントンです。バドミントン歴は高校から始めて約22年になります。阿波市の社会人サークルで活動しています。高校生、大学生、社会人など様々な人と仲良く交流しています。バドミントンは最速のスポーツとしてギネスブックに認定されています。社会人の大会に参加していて、シャトルの速い打ち合い、相手をどう崩すかの駆け引き、体力勝負などスリルがあります。小さい子供から高齢者まで幅広くすることが出来るスポーツですので、興味がある方はバドミントンをされてみてはどうですか。





# にこにこ保育園通信



8月24日、にこにこ保育園で夏祭りを開催しました。夏祭りの開催は約5年ぶりだったので、久しぶりに園内で夏祭りが出てとても賑わいました。親子でゲームを楽しんで頂いたり、一緒に製作をして頂いたりと親子で出来るコーナーをたくさんつくりました。たくさんの笑顔が見られた夏祭りとなりました。

